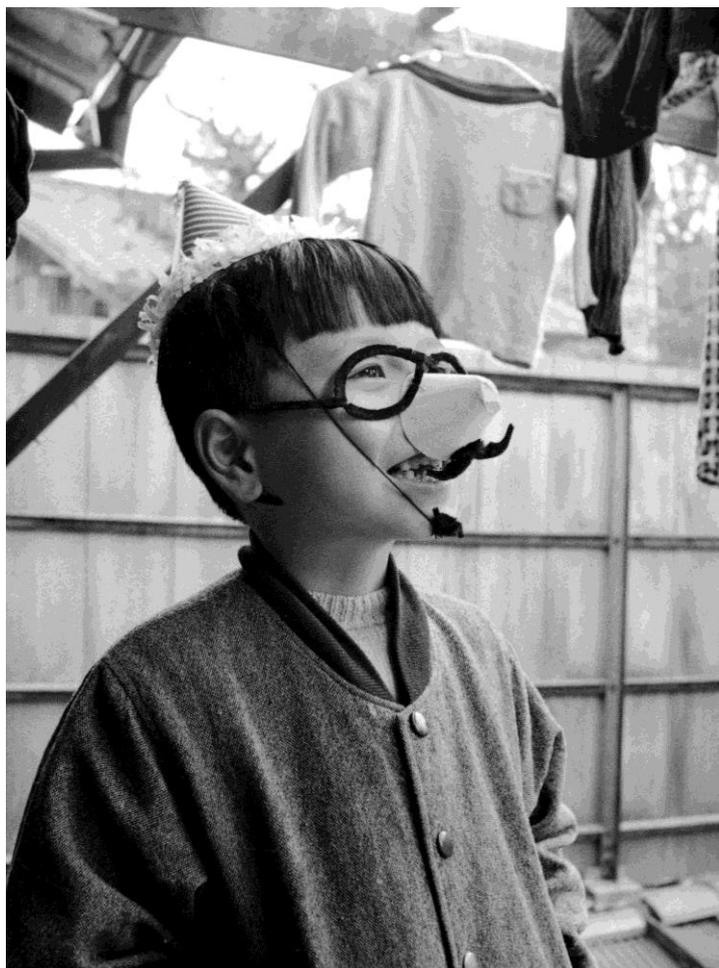


カメラを手にした八木一夫



京都を拠点に活動した八木一夫（1918～1979）は、1948年に鈴木治、山田光ら陶芸家の仲間たちと結成した走泥社の中心的存在として、用途を持たない「オブジェ焼き」の制作によって戦後の日本陶芸の表現領域を押し広げた、いわば陶芸界のカリスマでした。

八木のユニークな才能は、ブロンズやガラスの作品でも発揮されましたが、自身で撮影した写真についてはこれまで明かされることがありませんでした。本展では、その知られざる一面を、八木家に残る数千カットにおよぶ写真資料のなかから100点を選び出して紹介いたします。

①八木一夫撮影

クリスマスの後に 1961年

1. 展覧会名（当館2階第2展示室テーマ展）

「カメラを手にした八木一夫」

2. 展示内容

八木一夫が撮影した写真100点（複写してパネル張りした作品）等

3. 見どころの簡単なご紹介

（140文字の場合）戦後陶芸界のカリスマ的存在だった八木一夫（1918～1979）は、日常の一瞬を切り取るスナップショットの撮影においてもユニークな才能を発揮しました。本展では、これまで知られることのなかった八木の新たな一面を、残された数千カットにおよぶ写真資料のなかから100点を選んで紹介します。

（102文字の場合）戦後陶芸界のカリスマ的存在だった八木一夫（1918～1979）は、日常の一瞬を切り取るスナップショットの撮影においても才能を発揮しました。本展では、その知られざる一面を100点の写真資料により紹介します。

（63文字の場合）戦後陶芸界のカリスマ的存在だった八木一夫（1918～1979）の知られざるスナップショットの才能を100点の写真で紹介します。

4. 主催

茨城県陶芸美術館

5. 特別協力

八木明氏、京都国立近代美術館

6. 会期・会場

2022年12月14日(水)～3月12日(日) 茨城県陶芸美術館2階第2展示室

7. 休館日

月曜日(2023年1月2日、9日を除く)、年末年始(12月29日(木)～2023年1月1日(日))、
2023年1月10日(火)

8. 開館時間

午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

9. 観覧料

一般 320(260)円、満70歳以上 160(130)円、高大生 260円(210円)、小中生 160(130)円
()内は20名以上の団体料金。

* 企画展会期中は、企画展チケットにて本展もご覧いただけます。

* 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳または指定難病特定医療費受給者証をお持ちの方および付き添いの方(ただし1人につき1人まで)は無料。

* 2023年1月28日(土)は満70歳以上無料。

* 土曜日は高校生以下無料(ただし長期休業日にあたるものを除く)。

10. 関連行事

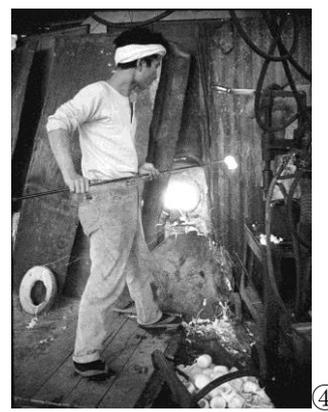
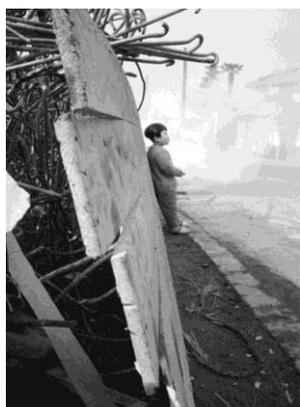
ギャラリートークや参加型イベントを予定。* 詳細は展覧会チラシ、当館HPをご参照ください。

11. 問い合わせ先

茨城県陶芸美術館 学芸課 花里麻理

〒309-161 茨城県笠間市笠間 2345 番地 電話 0296-70-0011 Email hanazato.mari@blue.ibk.ed.jp

12. 広報用画像(①から⑥まで、①は本紙の最初に掲載。)



すべて八木一夫撮影
②桂大橋付近 1962年
③蛇ヶ谷にて 1962年
④京橋硝子工場にて 1962年
⑤国道1号線所見 1962年
⑥清水寺にて 1962年